

SUSAP/SRU Immersion Program

佐賀大学×スリッパリーロック大学

～オンライン短期留学プログラム～

期間：2021/09/15~2021/9/24（10日間）

オンライン留学先：スリッパリーロック大学（アメリカ）



【目次】

- 1.メンバー紹介
- 2.プログラム概要
- 3.米国、ペンシルバニア、大学の紹介（各グループ）
- 4.プレゼンテーションに用いたスライド等の資料
- 5.研修を通じて学んだこと

1. メンバー紹介 (リ:グループリーダー)

(A グループ)

- ・工藤 依沙 【2年生・芸術地域デザイン学部】
- ・手嶋 竜太 【2年生・経済学部】
- ・三好 杏実 【4年生・医学部】リ

(B グループ)

- ・平井 さやか【1年生・教育学部】
- ・山西 翔子【3年生・農学部】
- ・小川 瑞希【4年生・医学部】リ

(C グループ)

- ・中原 歩美 【1年生・経済学部】
- ・安達 さくら【2年生・理工学部】
- ・下村 綾菜 【3年生・農学部】リ

(D グループ)

- ・松本凌実 【3年生・経済学部】リ
- ・高口ひな 【1年生・経済学部】
- ・石津七海 【2年生・農学部】

2. プログラム概要

本プログラムは、2021/09/15~2021/09/24の日程で佐賀大学の海外協定校の授業を聴講し、現地の学生と交流することを目的としたオンラインプログラムです。

今回、佐賀大学の日本人学生参加者は、A,B,C,D グループにそれぞれ分かれプレゼンテーションなどの際に協力して活動を行いました。

事前研修・研修・事後研修の順に活動を行いました。研修については以下の通りです。

オンラインで現地学生向けの授業を一緒に聴講し、割り当てられたスリッパリーロック大学の学生たちとそれぞれ会話パートナーを組み、1対1で会話をします。

(*会話パートナーは、事前に割り振っていただけました)

また、毎日 journal(日記のようなもの)を書き、ライティングセンターにオンラインで訪問し、現地の先生にその場で自分が書いた英文を添削してもらいました。質問もその都度英語で行いました。

以下に、プログラムの日程などの詳細を添付します。

*今回は追加で9/27の活動も行いました。

Program Schedule

	Date	US Time	JPN Time	Activity
Day 1	Wed 9/15	8:40-9:40 9:50-10:50	21:40-22:40 22:50-23:50	Orientation *Dean, Chair, Global Engagement (9amEST), Writing Center (9:20am EST) ESL (Introduction & Conversation Strategies) Do the followings at convenience: *Write a journal.
Day 2	Thu 9/16	8:20-9:20 9:30-10:45 11:00-12:15	21:20-22:20 22:30-23:45 *00:00-*01:15	ESL (\$, Cooking) Class Visit: Developmental Psychology (Dr. Catherine Massey) Class Participation: Japanese 103 Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log.
Day 3	Fri 9/17	10:50-11:50 12:00-12:50	23:50-*00:50 *01:00-*01:50	ESL (Grocery Store) Class Visit: Intercultural Communication (Dr. Fadoua Loudly) Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log.
Day 4	Mon 9/20	10:50-11:50 12:00-12:50	23:50-*00:50 *01:00-*01:50	ESL (Field Trip) Class Visit: Intercultural Communication (Dr. Fadoua Loudly) Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log.
Day 5	Tue 9/21	Mon 21:00-22:00 8:20-9:20 9:30-10:45	10:00-11:00 21:20-22:20 22:30-23:45	Activity with Japanese Club --- ESL (Discussion) Class Participation: Japanese 102 No Class Visit today Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log. *Start preparing for End Project.
Day 6	Wed 9/22	Tue 21:00-22:00 10:50-11:50 12:00-12:50	10:00-11:00 23:50-*00:50 *01:00-*01:50	Presentation on Samurai (*Preparation must be done prior to the program.) --- ESL (SRU Campus) Class Visit: Intercultural Communication (Dr. Fadoua Loudly) Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log. *Prepare for End Project.
Day 7	Thu 9/23	8:20-9:20 9:30-10:45 11:00-12:15	21:20-22:20 22:30-23:45 *00:00-*01:15	ESL (Scavenger Hunt) Class Visit: Developmental Psychology (Dr. Catherine Massey) Class Participation: Japanese 103 Do the followings at convenience: *Write a journal. *Visit Writing Center as scheduled. *Meet Conversation Partner & Enter a log. *Prepare for End Project.
Day 8	Fri 9/24	8:00-9:30 9:15-9:30	21:00-22:30 22:15-22:30	Final Presentation Closing Ceremony: OGE, MLC Chair; Certificate of Completion *Visit Writing Center as scheduled
*Day 9	Mon, 9/27	8:39-9:24 9:28-9:24 11:06-11:51	21:39-22:24 22:28-23:24 *00:06-*00:51	Discussion with Union Area High School Students Discussion with Union Area High School Students Discussion with Union Area High School Students

3. 米国、ペンシルバニア、大学の紹介 (各グループ)

A グループでは、事前研修でペンシルバニア州について調べました。

Commonwealth of Pennsylvania

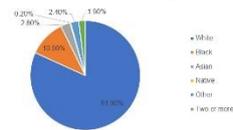
Group A
Ami Miyoshi
Isa Kudo
Ryuta Teshima

Where Is Pennsylvania?

- Capital: Harrisburg
- Largest city: Philadelphia

- One of the 13 original founding states
- Admitted to the Union: Dec 12th 1787 (2nd)

- Population(2020): About 13million (5th)
- Racial breakdown(2010):



Weather

Köppen climate types of Pennsylvania

Presidential Election

50% 49%
Swing State

Hershey

Dauphin County
Hershey

Hershey



Hershey's

Hershey



Hershey's
Chocolate
World

Pittsburg



Pittsburg



Pittsburg



Allegheny county
Pittsburg

Philadelphia



Philadelphia
County
Philadelphia

Philadelphia



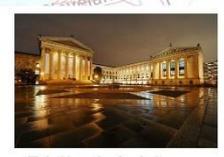
Independence Hall

Philadelphia



Liberty Bell

Philadelphia



Philadelphia
Museum of Art

One Liberty
Observation Deck



ペンシルベニア州とは

ペンシルベニア州はアメリカの北東部に位置する州です。13 植民地の一つに含まれ、数ある州の中でも 2 番目に合衆国に加盟した長い歴史を持つ州です。気候は日本でいうとちょうど北海道のような気候であり、大統領選挙では激戦区として有名です。

Hershey

かの有名なチョコレートメーカーが生まれた都市です。

Pittsburg

Big Mac が生まれた都市であり、Big Mac Museum が併設した Mc Donald's の店舗があります。

Philadelphia

アメリカの独立運動において重要な役割を果たした都市であり、Independence Hall が有名です。Philadelphia Museum of Art や One Liberty Observation Deck など魅力的な観光地も数多くあります。

B グループでは、事前研修でスリッパリーロックについて調べました。



基本情報

- アメリカ合衆国のパトラーク郡、ペンシルバニア州に属する。
- 人口:3068人(推定)
- 面積:4.37km²
- 1841年にできた。
- 時差は14時間日本が早い。
- 北緯41°、青森県と同じくらいの緯度。
- 1年を通しての最高気温は28°C、最低気温は-9°C。

スリッパリーロックの位置

ペンシルバニア州の中的位置



スリッパリーロック大学の基本情報

- 学生数 約7500人。
- 1889年にSlippery Rock State Normal School(SRSNS)として創立され、1926年にSlippery Rock State Teachers College、1960年にスリッパリーロック州立大学、1983年に現在の総合大学であるスリッパリーロック大学になった。
- 教育学部、保健・環境科学学部、人文・芸術・演劇学部、ビジネス・インフォメーション・社会科学学部の4つの学部からなる。
- 160以上の部活動がある。
- 学費は約16000ドル。

サークルについて

- 人気のサークルランキング
- 1位 University Program Board
- 2位 Interfraternity Council/Panhellenic Council
- 3位 State Government Association

- 国際交流クラブの活動が盛んで、交流ディナーやファッションショー、スポーツイベント、日帰り旅行などが盛んに催される。

スリッパリーロックの位置

- スリッパリーロックはアメリカ北東部のペンシルベニア州の中の都市です。
- スリッパリーロックはペンシルバニア西部の丘陵地帯に位置します。

スリッパリーロックの人口

- 人口は 3068 人と小さな町で、大学を中心に栄えている学生が大半の町です。

スリッパリーロックの気温

- 年間の平均最高気温が 28°C、平均最低気温が-9°Cで、冬の寒さがとても厳しいです。

C グループでは、事前研修でアメリカの文化について調べ発表しました。

アメリカを知り、世界を知る

Know the US, know the world.

SUSAP 2021 SUMMER SUPERPOWER

Outline

ーアウトラインー

- 言語 Language
- スポーツ Sports
- 祝日 Holidays
- 宗教 Religion
- 知っておきたいアメリカの文化 American's Feature

言語 Language

What is the most spoken language in US?

Language	Native Speakers
English	229 million
Spanish	43.2 million
Chinese	2.9 million
Tagalog	1.7 million
French	1.2 million
Vietnamese	1.5 million
German	0.92 million
Arabic	1.2 million
Other	0.94 million
Japanese	1.1 million

- 英語(English) - 254 million native speakers
- スペイン語(Spanish) - 43,200,000 native speakers
- 中国語(Chinese) - 2,900,000 native speakers

スポーツ Sports

→ アメリカ4大スポーツ
フットボール、野球、バスケットボール、ホッケー

祝日 Holidays

→ アメリカ連邦政府が正式に決定しているもので10の祝日がある。

- New Year's Day (January 1)
- Independence Day (July 4)
- Memorial Day (Last Monday in May)
- President's Day (Third Monday in February)
- Birthday of Martin Luther King Jr. (Third Monday in January)
- Labor Day (First Monday in September)
- Columbus Day (Second Monday in October)
- Veterans Day (November 11)
- Thanksgiving Day (Fourth Thursday in November)
- Christmas Day (December 25)

宗教 Religions

"Congress shall make no law respecting an establishment of religion, or prohibiting the free exercise thereof; or abridging the freedom of speech; or the right of the people peaceably to assemble and to petition the Government for a redress of grievances."

議会は宗教の自由な選択に少しでも悪影響を及ぼすような法律を制定してはならないし、宗教の自由を脅かすような法律を排除してはならない

Religions

Explore religious groups in the U.S. by tradition, family and denomination

Christian	Percentage	Non-Christian Faiths	Percentage
Evangelical Protestant	25.4%	Jewish	1.9%
Mainline Protestant	24.7%	Muslim	0.9%
Historically Black Protestant	6.3%	Buddhist	0.7%
Catholic	20.8%	Hindu	0.7%
Mormon	1.6%	Other World Religions	0.3%
Orthodox Christian	0.9%	Other Faiths	1.5%
Jehovah's Witness	0.8%	Unaffiliated (religious "nones")	25.4%
Other Christian	0.4%	Atheist	3.1%
		Agnostic	4.0%
		Nothing in particular	15.6%
		Don't know	0.8%

知っておきたいアメリカの特徴 American's feature

- Think BIG
- Small Talk
- "To-go" concept - Eating on the run
- Independence
- Going out to eat or ordering take-out
- Speaking Up

しかし、最近の若者たちは、エコフレンドリーになりつつある！

しかし、最近の若者たちは、エコフレンドリーになりつつある！

→ アメリカではイートインより "to go" が一般的

→ DoSomething.orgによると、アメリカの食事の約20%が単内で食べられている

→ 特にニューヨークではどろろを食べながら街にいたり、列に並びながらコーヒーを飲んだりしている人がとても多い。

X

☑ Going out to eat or ordering take-out

→ 「人種のるつぼ」という特性に基づいた多様な食べ物のオプションを利用することを楽んでいる

→ 小さな町でも、ピザはもちろん、日本食、中華、メキシカンなど豊富な選択肢がある

→ 大きな町へ行くともっと多様な食事が食べられる

☑ Small Talk

→ 知らない人や、隣人などと議論にならないくらいの軽いトークをすること

→ 誰かに害を与えたり、内容が深くならない

内容原則禁止!



XI

☑ Independence

The idea of being self-sufficient and being on your own is valued highly in the U.S.

→ アメリカでは、「個人の充実」が大切に考えられている

☑ Speaking Up

→ 自分の意見を積極的に率直述べること、自分の望むものを得るという思考

→ 職場などで、発言するときに恥ずかしがらない

いむしろ周囲も、指摘されて改善されることを望んでいる



Thanks for listening!

☑ 言語 Language

☑ スポーツ Sports

☑ 祝日 Holidays

☑ 宗教 Religion

☑ 知っておきたいアメリカの特徴 American's Features



© 2019 HUBBARD LUNDAU CULTURE

SCORE HUBS | COMPANY CULTURE HANDBOOK

スライドに即して概要を述べます。

・言語

アメリカで最も話されている言語は英語で、その次にスペイン語、中国語です。多国籍国家のアメリカでは上記3か国語のほかにも様々な言語が話されていることがわかります。

・スポーツ

アメリカの4大スポーツはフットボール、野球、バスケットボール、ホッケーです。アメリカはとても大きな国土を有するので、気候など地域によっても人気なスポー

ツは異なります。

・祝日

アメリカ連邦政府が正式に決定しているもので、10の祝日があります。スライドにあるように、日本にはない祝日もあります。

・宗教

宗教の自由が強く守られており、「議会は宗教の自由な選択に少しでも悪影響を及ぼすような法律を制定してはいけない」とされています。宗教も非常に多様です。

・知っておきたいアメリカの特徴

(食事)

アメリカでは大きなものが好まれ、車や食べ物も大きいサイズがより好まれる傾向にあります。しかし、最近の若者たちの間ではエコフレンドリーの考えも広まりつつあります。食に関して、アメリカではイートインよりも持ち帰りが一般的で、調査によるとアメリカの食事の約20%が車内で食べられているそうです。

(スモールトーク)

日本では一般的ではありませんが、アメリカでは知らない人や隣人などと会った場合、議論にならないくらいの軽い会話をすることがよくあります。エレベーターの中でもスモールトークが行われます。

(個人の充実)

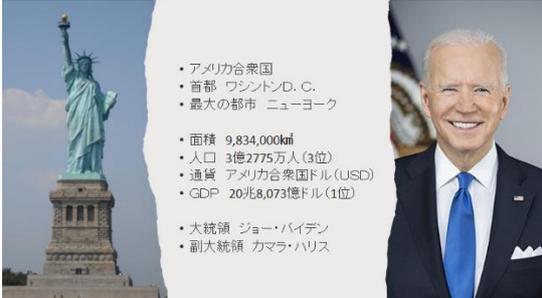
アメリカでは、子供のころから自立を促すような教育を行うといえます。そのため、

一人一人が「個人」であることが重要視されています。

(自分の意見を積極的に、率直に述べる)

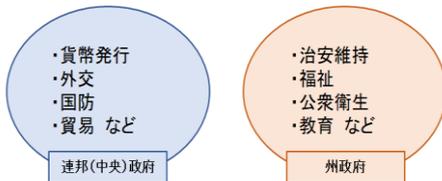
自分の意見を率直に述べることで、自分の望むものを得るという考えがあります。人前で発言するときに恥ずかしがらず、むしろ周囲も指摘されて改善されることを望んでいる、という雰囲気があるそうです。

D グループでは、事前研修でアメリカの経済と政治について調べました。



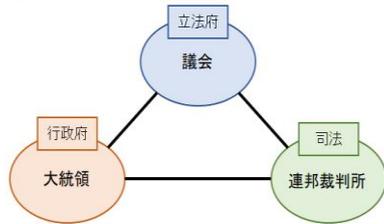
連邦制とは？

アメリカの連邦政府(中央政府)と州政府がそれぞれ権限を持ち分業している仕組み



三権分立とは？

連邦政府の中で3つの権力が分立している仕組み



大統領が持つ権力は？

基本的には**行政権**をもつ
しかし、**立法権**・**司法権**にも一定の影響を及ぼす

- 例)
- 拒否権**
議会が可決した法案を拒否できる
この拒否を覆すには上院・下院の3分の2以上の票が必要
 - 任命権**
最高裁判事を任命できる
就任には上院の承認が必要

『日米関係これまでの大まかな年表』

1854年	日米和親条約が調印
1911年	関税自主権の回復
1939-1945年	第二次世界大戦では敵国として戦う
1945-1952年	GHQに占領される
1952年	サンフランシスコ平和条約発効により主権を回復
1952年	日米安全保障条約発効(60年改定)

日米同盟の始まり

- 戦後の1951年、日本は、独立を回復したサンフランシスコ平和条約とともに、アメリカと日米安全保障条約を締結
(当時の条約は、日本に駐留するアメリカ軍に大きな権限を与えるものだった。)

<効果>

- 日本: 防衛予算を抑えて産業の振興に力をいれたことで、高度経済成長につなげられた。
- アメリカ: アジア太平洋地域に効率的に軍事力を展開し、冷戦時代には、共産主義勢力の拡大を抑えることができた。

日米安全保障体制の見直し議論



○冷戦の終結後、紛争の複雑化や国際テロ組織の台頭など、新たな課題が浮かび上がる
→日米の安全保障体制の在り方も変えるべきなどの議論が上がる。

○さらに1995年、沖縄県でアメリカ兵による少女暴行事件が発生
→日本国内で基地の縮小を求める声が高まる。

翌年、日米両政府は、アメリカ軍普天間基地を返還することで合意し、名護市辺野古への移設計画を進める。

日米首脳会談



2012年、当時の野田総理大臣が民主党政権で初めて、ワシントンへの公式訪問を果たし、オバマ大統領と日米首脳会談を行う

日本はアジア重視を掲げるオバマ前政権との間で、日米同盟を深化させるとともに、TPPやパリ協定など、国際的な議論をけん引



・オバマ前大統領は、広島を訪れ、「我々は核兵器のない世界を追い求めなければならない」と述べた。

・現在、日本とアメリカは、北朝鮮の核・ミサイル開発の脅威や、イスラム過激派組織によるテロや過激派思想の広がり、それに中国の軍備増強や海洋進出など、安全保障上の共通の課題を抱えていて、連携して問題の解決に当たっている。



・1980年代から90年代にかけて激しい貿易摩擦も経験

・現在は
日本の最大の貿易相手国 輸出1位
輸入2位
アメリカの輸出入相手国ともに日本は4位

レーガン大統領



経済情報

- ・出生率・1.6 (年々減少傾向にあり、2021年は過去最低)
- ・高齢率は18%を超えており、高齢化社会である
- ・物価 日本と比べて同じくらい
- ・ただし、人気都市になればなるほど高くなる
- ・大学の授業料 公立293万円 私立403万円
- ・消費税 州ごとに違い、3~7%前後
- ・中には消費税がかからない州もある (アラスカ州やオレゴン州等)
- ・失業率6.1% (年々下落していたがコロナの影響で減少)

日本に比べ平均年収が高い職業

トラック運転手 600万円 (日本 450万円)	中には1000万越え のドライバーも存在 する	歯科医師 1600万 円 (日本 800万 円)
看護師 700万円 (日本400万円)	経理コンサルタント 1000万円 (日本では マイナーな職業)	全体的に医療系の職業は 高収入である場合が多い!

年収

- ・平均年収 568万円 (日本 422万円)
- ・世帯平均年収 600~700万円程度 (日本 560万円)
- ・↓
- ・全体的にアメリカの方が高いことがわかる!
- ・特徴
 - ・成果主義・実力主義である
 - ・年功序列がなく、部下の上りも多いのが現状
 - ・女性の賃金が男性と比べて低い
 - ・男性を10とすると、女性が8といった形であるが、改善されている
 - ・収入格差が大きい
 - ・中流階級が非常に少ないため、富裕層と貧困層の二極化が顕著

アメリカについて

正式名称・アメリカ合衆国 首都・ワシントン 人口3億2775万人

アメリカの政治

連邦制をとっており、大統領は独立している。

日本とは、幾度となく、日米首脳会談を行うなど、関係は良好

アメリカの経済

広大な土地と人口により、GDP は世界一位を誇る

平均年収においても日本より高い職業が多い

※詳細な情報は上記スライドより

4.プレゼンテーションに用いたスライド等の資料

プログラム中の授業の一環で、日本語を履修しているスリッパリーロック大学の生徒に向け、SAMURAI に関するトピックについて各グループが英語で発表しました。その後スリッパリーロック大学の学生と SAMURAI に関するディスカッションを行いました。
以下が、その授業で用いたスライドです。

(A グループ 佐賀城について)



About Saga Castle
Ami Miyoshi
Isa Kudo
Ryuta Teshima

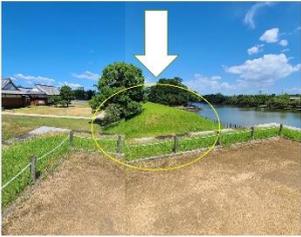
What is “Han” → 藩

1. Like prefecture.
2. Like domain each leader dominated.
3. Various rank of people lived there.

Let's tour around Saga castle



It's the gate of Saga castle
5~6M



1. Fishing.
2. Playing in the water.
3. Narrowing the way where enemy impede .

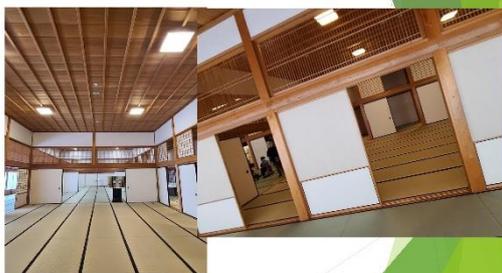
Answer → 3!



▶ The three richest families lived in this room.



This is the structure of Saga castle in Edo period



Ancient documents indicates that,,,

► There were many

1. Typhoons
2. Flood
3. Famine

Reference: Story by Masanobu Matsuo in Saga news paper

Medicine was invented



Many lives were helped



Conclusion

Saga domain
Helped Kyushu and Japan
develop.



(Bグループ 鍋島藩について)

Introduction to Nabeshima Clan

Group B
Mizuki Ogawa
Shoko Yamanishi
Sayaka Hirai

About Nabeshima Clan

- Nabeshima clan had the 8th most yield of crops among Tozama clan, which are the group of clans having the least trust from Edo Shogunate.
- It was ruled by Nabeshima clan for 260 years.



About Kodokan

- Greater emphasis was given to education during the Edo period, when domain-operated schools began being established throughout Japan for the purpose of educating the sons of feudal retainers.
- One such domain school was the Kodokan, which was established in Saga Domain in 1781.
- It was moved to Kitahoribata and expanded during the rule of the 10th lord Naomasa.
- At the Kodokan, newly built in 1840, both literary and military arts were actively promoted.

10th lord Naomasa Nabeshima



Kodokan educational rules and requirements



About Hagakure

- Hagakure was written by Turamoto Tashiro in 1716 in Saga.
- It's about what Tunetomo Yamamoto said.
- It explains how to live the peaceful world as a samurai who serves for Nabeshima clan.



https://es.wikipedia.org/wiki/Yamamoto_Tsunetomo

(Cグループ 山本常朝について)

Tsunetomo Yamamoto



Outline

- Who is he?
- What was he like?
- What is his bushido philosophy?
- What kind of influence has he had?



Who is he?

- He was a *samurai* of the Edo era.
- He served *Mitsushige Nabeshima* who is the second Saga master more than thirty years.
- He was a dictator of "*Hagakure*".



What was he like?

- Hagakure → 
- 1659 He was born 
 - 1668 Began to serve *Mitsushige Nabeshima*
 - 1679 Learned the Buddha Way
 - 1701 Became a monk after *Mitsushige Nabeshima* died
 - 1710 *Hagakure* began to be created
 - 1720 He died
 - His grave is in Saga 

What is his bushido philosophy?

The fam... "retar?"
However, it doesn't really mean anything.
In... "shido is die"



"Bushido to iuha shinukoto to mitsuketari"

Really mean
It is essential to be prepared to die in a way that does not bring shame to life as a samurai.

Always make the right decisions regardless of life or death.

This word explains the attitude of the samurai.

If I show his bushido philosophy in an easy-to-understand diagram ...



What kind of influence has he had?

Actually
Hagakure was treated like a banned book by *Nabeshima* Clan, so there were few samurais who knew his thought.



Hagakure and his thought came to be known among people only after a printed book being published in last years of *Meiji*

When the *Showa* era began, the *Bushido* mind was incorporated in growing militaristic trend.

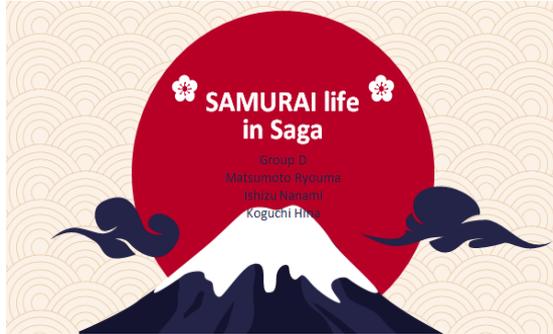
Making true heart for a partner, taking responsibility for own remark and action, acting for a person and for the life, etc... *Bushido* spirit is inherited even now.

Thank you for listening!

The birthplace of *Hagakure* → 

(D グループ)

佐賀での武士の生活について



* Contents of This Presentation

- Introduce the samurai
- Showing his life
- Conclusion

* Who are they?



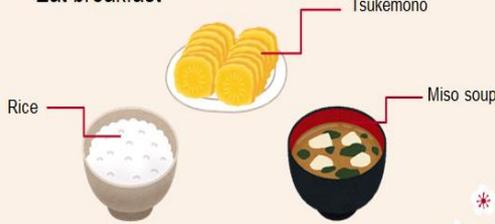
They ...

- Lives in Saga
- Belongs to Nabeshima han
- military professions

When sun rises

Wake up!

* Eat breakfast



Rice

Tsukemono

Miso soup

* Change clothes

- a long hemmed hakama over the kimono
- Sword
- Topknot



10 a.m.

Go to Sagajo

* Work

Fighting is not a samurai's job in edo period.
Samurai's job is like office work.

- Metsuke
- Matibugyo etc.



5. 研修を通じて学んだこと

「刺激にあふれた経験」

芸術地域デザイン学部

地域デザインコース 2年 工藤依沙

今回は、私にとって2回目の SUSAP です。1回目と比べて、今回は英語のアウトプットをする機会が多いプログラム内容でした。だから、自分の英語力を図る上でいい機会だと思い、プログラムへの参加を決めました。私が参加を希望した理由は3つあります。それは、想像と実際の留学のギャップを埋めること、ライティング力の向上、英語でのコミュニケーションに慣れることでした。

一つ目の目標は、ESL の授業や SRU で実際に開講されている授業へ参加したことで達成できたと思います。アメリカのスーパーでの疑似ショッピングや SRU の授業への参加は、日本にいながら本当に留学しているような感覚でした。二つ目の目標は、ライティングセンターでのライティングチェックを通して達成することができました。元々、私はライティングに苦手意識があったのですが、毎日ジャーナルを書くうちに英文を書くことへの抵抗が薄れていきました。三つ目の目標はカンバセーションパートナーとの1対1での会話や侍クラスとの交流を通して、達成することができたと思います。最初はどんなことを話せばいいのかわからなかったのですが、次第に慣れてきて、長い時では1時間ほど英語で会話をすることができました。また、アメリカで人気のアニメやドラマなどを同世代の人たちか

ら実際に聞くことができ、とても楽しかったです。

プログラムの中で、いい刺激を受ける機会がたくさんありました。そのうちの 하나가、SRU の学生たちの日本語を学ぶ姿勢です。英語話者にとって特に難しい日本語を選び、ひらがなや漢字を学んでいる彼らは本当にすごいと思いました。また、彼らが日本語を使って積極的にコミュニケーションをとってくれることが嬉しくもありました。たくさん質問してくれ、日本の好きなのところなどを教えてくれて、その積極性と好奇心に驚きました。この経験を通して、英語を学ぶ中で私ももっと積極的に自分の好奇心を探究しようと思いました。

このプログラムを通して、他にも刺激を受けたことがあります。SRU の学生と交流する中で、疑問に思うことがありました。それは、zoom の名前の後ろに (She/Her) や (They/Them) などと書いている人が複数人いたことです。私はそれが何を意味するのかわからなかったため、学生に質問をして自分で調べました。そうすると、それらはジェンダーアイデンティティに関する表記だということがわかりました。例えば、「私のことは She という代名詞で呼んでください」という意思を示すものです。私が知っている限り、日本ではこのようなジェンダー代名詞はないため、驚いたと同時に日本との違いを強く感じました。この経験から、アメリカでは自分の性に関する認識が身近にあり、SRU の授業でもそのようなトピックを扱っていたため、日本と比べてジェンダーに対する捉え方が多様なのではないかと感じるようになりました。ジェンダーとはなんなのか、国によって捉え方に違いがあ

るのかなど、これまであまり関心を持って
いなかったジェンダーというトピックに興
味が出てきたため、今後調べていこうと思
います。

今回のプログラムでは、英語を使う場面
が多く、英語でのコミュニケーションに慣
れることができました。しかし、学べたこと
は英語力の面だけではありません。アメリ
カの文化や SRU の学生たちが考えている
ことを直接知ることができ、メディアを通
さないアメリカを感じることができました。
知らなかったこと、知っていたが気になら
なかったことを意識するようになり、自分
の興味関心を広げる忘れられない経験とな
りました。

経済学部 2年 手嶋竜太

今回私が SUSAP に参加しての感想は、自分の人生のターニングポイントになりかねない、そんな経験に今回の留学はなったと考えています。今まで私は机でリスニングの練習をしたり、英文を読むような学習に取り組んだりしてきましたが今回のような外国の方々と英語でディスカッションをしたり、お互いの生活について雑談をしたりするのは初めてでした。スピーキング能力とリスニング能力に不安があるまま今回の留学に望んだので初日から大変でした。ネイティブの方の発音に苦労して先生が何を言っているのか曖昧な部分もありました。しかし一生懸命取り組んで初日を終わることができました。今回オンラインと言うこともあり、会話するのに苦労はしましたがグループに分かれて、とても言いたいことを積極的にいえる環境を提供してくださいました。そして3日目くらいから徐々に理想と現実のギャップに苦しんで、満足いく経験をできるのか不安になってきました。それでも毎日日記を書いて、自分のスピーキングがどうだったのか、もっとどういう表現が使えるのか寝る前に確認しました。そうすることで頭の中が整理できて7日目くらいから会話の質が変わったと実感しました。

また先輩達の姿にも感動しました。先輩達は積極的に相手の学生に質問をしていき会話を盛り上げていました。わたしも最終報告会で先輩達が教えてくださった英語の学習方法を実行して、もっと海外のことを学んで海外に日本の良さを伝えていきたいです。

以前に「日本の人は海外の文化を知って自身が変わることがあっても、日本の文化を海外に伝えて海外の文化を変化させることはあまりない」ときいたことがあります。自分は将来外国人の方々と沢山交流する中で日本の良さを伝えてその方々の生活、考え方を発展させる、そのような人財になりたいです。そのためには自分の国の良さをまず知ることが大切だと考えます。コンバセーションパートナーの方はよく私に日本の有名な曲や遊び、観光地などを尋ねてきました。時には私の知らない日本の観光地を紹介してくれました。この留学をきっかけに日本の良さを友達と再発見していきたいです。

また今回アメリカ人の視点から9/11の問題、人種差別の問題を考えることができました。9/11の問題と、現在あるタリバン、アフガニスタン問題が関係していることは授業の中での現地生徒のプレゼンをきくまでわかっていませんでした。でもこの授業をきっかけに自分で調査をして20年前の問題が今にも関係していることがわかりました。宗教と政治が関係している形態というのは私にとっては特殊で日本人には考えることが難しいと考えますが、この問題というのはアメリカとアフガニスタンだけではなくて全世界に与える経済的、人権的な影響は大きいと考えるので国連でも議論が必要なのではないかと、こういった問題を解決するための司法面でのアプローチが国連にももっと補充されるべきだと、このように考えました。

今ではSRUの生徒達と交流を持つことができ、いつでも会話ができる状態は整っているため後学期が始まっても関係を持つ

て積極的に交流していきたいです。SRU、
佐賀大学の先生方の協力で貴重な経験がで
きました。ありがとうございました。

「今考えること」

医学部医学科 4 年 三好杏実

英語の習得への道のりは果てしないものだと思つづく思います。この試験に受かれば、何点以上取れば、というように具体的なゴールがあるものではないですし、その進歩も非常に緩やかなもので、数週間や数ヶ月単位では自分の成長を実感できず、もどかしく感じるものです。ですので、私はこの 10 日間のプログラムで英語力が見違えるほど向上することを期待していたわけではないのですが、多くの刺激を受け、新たな問題意識を持つことができたという点で非常に実りのあるものとなりました。ひとつひとつの経験や思い出はここでは語り尽くせないので、プログラムを終えたての今、心に浮かぶこととお話ししようと思います。

まずは、非常に良いアウトプットの機会だったと感じています。毎日英語を話す、ということをはたすら楽しめた 10 日間だったと思います。少なくとも、発言しようかしまいかと迷うことはなくなりました。それで気が付いたのが、もし私が日本語と同じくらい英語を流暢に話せるなら、英語の方が話しやすいかもしれないということです。日本語では相手が目上かどうか、知っている人かどうかでまず話し方を変えますし、何か主張したいときにも言葉を慎重に選ばないと印象が悪い(主観ですが)ので少し煩わしく感じます。そして、なぜか英語を話しているときの方が自信を持って意見を言えるような気がするのです。個人的には活字にされた日本語の文章は美しく(主観です

が)好きなのですが、会話や特に意見を言うときには英語の方が心地よいと感じます。日本語を使うときの自分と英語を使うときの自分は別の人格なのではと思ってしまうくらいです。今まで気がつかなかった言語の持つ特色のおもしろさに考えを巡らせることができたのも、このプログラムのおかげです。

英語の学習、現地の人とある程度交流することに関していえば、オンラインの留学でも十分できるものなのだなどと驚きましたが、やはり現地へ赴き留学をしたいという気持ちが掻き立てられた、というのがこの 10 日間を通して私の中で生まれた最も強い感情かもしれません。

では、留学をすることの意義は一体何でしょうか。私が将来医師として渡米したいのは、必ずしも日本よりもアメリカの医療や医師の教育が優れていると考えるからではありません。そんなことは正直行ってみないとわかりません。ただ、同じ学問を学んでも異なる学び方や考え方をする人達がこの世界にいるなら、私はぜひそれを知りたいと思うのです。

私は医師になってから臨床留学をするというのを一番大きな目標として掲げていますが、本当は学生の間にも休学してでも留学(主に語学目的で)したいと考えていました。ですが、医学部ではそもそも長期留学したければ休学するしかないですし、医学の勉強を中断してまで留学する意味はないだろうとまで言われたこともあります。医学生なのに留学したいなんてもしかしたら自分の考えが間違っているのかもしれないと思うこともありました。そんな迷いがこの 10 日間で払拭されたのは、分野にかかわら

ず新しいことを学ぶことが何よりも私にと
きめきを与えてくれるものだと思改めて実感
できたからだと思います。私は医学生であ
り、より良い医師になりたい、そのために医
学を深く学びたいと願うのは当然ですが、
その前に一人の人間として、あらゆる方面
から刺激を受けながら生きることを忘れた
くないです。ただの人間としての私と医師
としての私を切り離すことはできないので
すから、一見医学に関係なさそうな経験も
医師としての私に大きく影響を与えること
は明らかだと思います(きっとプラスの意
味で)。私はそこに留学の意義があると思
うのです。

最後になりましたが、このプログラムを
通してお世話になったすべての方々に心か
ら感謝申し上げます。一日も早く、また海を
渡れる日が来ることを願って。

「SUSAP SRU 研修での学び」

教育学部 1年 平井さやか

私がこの SUSAP の研修に参加した理由の一つに、自分に自信をつけたいから、というのがありました。小・中・高と英語を学習してきたにも関わらず、英語力が十分に身につけていないこともあって、今回のプログラムを通して英語を使う機会を設け、少しでも自信を持てるようになりたいと考えていました。ところが、いざ SRU の教授や学生と会話してみると、言いたいことを表現するための英語が頭に浮かばない、相手が言っていることを完全に理解することができないなど、自分の英語力のなさを痛感しました。それでも SRU の方々は、私がゆっくりでも話すことを受け入れてくれ、励ましてくれました。また、学校で習うような完全な文でなくとも、伝わるということがわかり、何より大事なものは自分の英語力に自信がないからこそ、積極的に英語を話し、相手とのコミュニケーションを楽しむことだと気づくことができました。

また、SRU の学生と何度も話す中で思ったことは、日本に興味のある学生が多いということです。ほとんどの方が日本のアニメを見たことがあったり、寿司を食べたことがあったりして、日本人としては嬉しく思いました。同時に、侍や武士に関する質問や温泉に対する質問などをされた時に、普段あまり意識することのない観点で質問されたので答えるのに時間がかかるということがありました。日本から見る日本と外国から見る日本は異なるということ、そして

異なる考え方や価値観を理解するためにはやはり海外に触れることが必要だということを実感しました。

このプログラムを通して、SRU の授業を受けたり毎日ジャーナルを書いてライティングセンターの方に添削してもらったり、カンバセーションパートナーと会話したり、する事で、英語に対する苦手意識が減ったとともに、新たな発見や考え方を身につけることができました。そしてもっと英語を話したい、もっと多くの外国人と深い話し合いがしたい、そして将来実際に留学して海外の大学生活や日常生活を送りたいという思いが強くなりました。また、このプログラムに参加していた他の佐賀大学の学生から学ぶこともとても多かったです。まず様々な学部の先輩や同級生と関わることができ、みなさんが自分の考えをしっかりとっておられ、SRU の授業で積極的に発言したり質問したりする姿を見て、とても刺激を受けました。日本の大学でも、授業中に積極的に発言し、充実した授業を作っていこうと思います。また、先輩に英語の勉強法や留学に対する話を伺えたことも有意義でした。このプログラムに参加しなかったら、得られることのできない貴重な経験ばかりでした。

私は将来、英語の教員になることが目標です。まずは英語をネイティブの方とも普通に話せる程度に身に付け、自分とは異なる文化や価値観に出会い、新たな学びを得ることの楽しさを多くの人に伝えたいです。そのためにも自分がこれから、英語だけでなく、日本について、外国について、様々な分野の勉強をし続けていこうと思います。

「研修を通して学んだこと」

農学部生物資源科学科 3年 山西翔子

私は2021年9月15日から9月24日まで10日間、アメリカのスリッパリーロック大学(SRU)にオンラインで留学しました。本プログラムに参加した目的は2つあり、1つ目は海外の大学の授業に参加し、実際に日本の大学の授業との違いを知ること、2つ目はスリッパリーロック大学の学生と交流し、海外の友人を作るということでした。この2つを含め、研修を通じて感じた様々なことについて述べたいと思います。

プログラムが始まり、SRUの授業開始直後から、アメリカと日本の授業の違いに衝撃を受け、授業を受けることに対して自分の持つイメージが塗り替えられるような感覚を覚えました。授業の開始と同時に、チャット欄では朝の挨拶が飛び交っており、オンラインであっても人と人との関わりを大切にしているのだと感じました。日本の授業では学生ができるだけ目立たないように行動する傾向があるように思われます。そのため、必要に迫られない限りチャット欄を使わずできるだけ発言をせずに教授の話聞いて勉強する、という状況にあります。私は海外の人と関わり、他の国について知るたびに日本人であることを自覚し、日本人の国民性を大切にしたいと考えようになりました。しかし、その国民性を踏まえた上で、学ぶ場である大学の授業では海外の授業のように自主的に学ぼうとする姿勢を今後取り入れていくことが将来の日本の大きな成長のために必要であると思いました。また、SRUの授業を通して、能動的に

行動し様々なことに興味を持つことの重要性を理解することが出来ました。能動的に行動することで、本来期待されること以上のことを吸収することができ、授業を受けたときに感じる満足感や達成感が大きく変わると思います。

SRUの授業では授業中の学生同士のコミュニケーションが活発に行われており、ある学生の発表に対して、その他の学生から多くの反応がありました。特に、発表の素晴らしいと感じた点を積極的に褒める学生が多く、その他の場面でも、褒めることをためらう学生はほとんど見られませんでした。私は留学の期間を通して、褒めるという行動について考えたので以下に述べたいと思います。褒めるという行為は、褒められた人にとって、その人の潜在能力や素質にその人自身が気づくきっかけになると私は思います。その時点で実際には褒められる程の能力が無かったとしても、努力してその能力を後付けで手に入れることができればよいと個人的には考えており、褒められることは、新たな方向性を見つけてその人自身が変わろうとするきっかけになるのではないかと思います。そのため、誰かをためらいなく褒めるという文化があるアメリカという国は、人が成長するのに最適な場所であると感じました。日本にも積極的に褒めるという文化を取り入れることで、よい循環を生むことができるのではないかと思います。

プログラムの中では、5人のカンバセーションパートナーと話すことが出来ました。どの方も、日本の文化に様々な点から興味を持ってくださっていて、改めて日本の文化の素晴らしさと世界に対する影響力を感

じました。特にジブリの作品が共通の話題となり、当初の目的であった、海外に友人をつくるということを達成できました。しかし、日本について認識が不十分でうまく答えられないこともあったため、やはり自国の文化や歴史を知っておくことは非常に重要であると思いました。自分とは全く異なる文化で生活する人達と交流することはとても面白く、毎回様々な学びが得られます。今回、本プログラムに参加し、貴重な経験をされたことに心から感謝したいと思います。ありがとうございました。

「勇気をもつこと」

医学部4年 小川 瑞希

9/15～9/24の約2週間、スリッパリーロック大学とのオンライン交換留学に参加しました。このプログラムに参加した理由は、私は英語が好きで、将来留学したいと考えているので、自分の英語力と英語を学ぶモチベーションを向上させたいと考えたからです。プログラムの前には事前研修が数回あり、グループごとにアメリカやスリッパリーロック大学などについて調べて発表を行ったり、サムライについて調べてプレゼンテーションをしたりしました。私たちの班は学校の図書館に数回集まったり、鍋島藩について調べるために佐賀城に実際に行ってみ学したりしました。この活動を通して、班の二人と仲良くなることができましたし、アメリカや日本の文化について知識を深めることができました。

実際のプログラムでは、英語のクラスが毎日あり、それに加えてスリッパリーロック大学で実際に行われている授業にオンラインで参加したり、Japanese clubの活動にも参加しました。また、毎日英語でジャーナルを書き、スリッパリーロック大学のライティングセンターの方に何度かリモートで添削をしていただきました。さらに、5人のconversation partnerの学生とオンラインで話しました。まず、英語のクラスに関してですが、先生方が本当に優しく、私は初めはとても緊張していましたが、その緊張も一気に吹き飛びました。英語でディスカッションをしたり、オンラインでアメリカのスーパーを見せてもらったり、スリッパ

リーロック大学のキャンパスツアーもオンラインで行いました。このような活動を通して、日本ではなかなかみることができないアメリカの実際の姿を体感することができました。また、グループごとに話し合いをするときに、私は英語で何かを言いたいけれど間違えていたら嫌だから、という理由で話し始められないということが最初の方はとても多かったです。しかし、それだと会話が前に進まないということに気づき、途中からは間違えていてもいいから何か言おう、と意識するようになりました。そして何か発言をすると、チューターの先生が必ず反応してくれて、話が進んでいきました。この経験から間違えていてもいいから発言する、という小さな勇気がとても大事だと気がつきました。そして、自分の意見を自信を持って言うことは英語だけでなくどの言語でコミュニケーションをするうえでも大事だと思いました。また、その他の授業への参加でも学ぶことが本当に多かったです、例えば、ある授業でアメリカの学生がプレゼンテーションする場面がありました。そのプレゼンテーションが終わった後に、他の学生がたくさん質問をしていたのがとても印象的でした。また、チャット機能を使って感想や質問を書いている人もいて、アメリカでは日本よりも授業中に自分の意見を言う機会が多いと感じました。このような学校での経験から日常生活でもアメリカの人は自分の意見を正直にいえるのかなと思いました。

今回の経験を通して、これから英語を学習するモチベーションもさらに高くなりましたし、将来機会があれば留学にも行きたいと強く思いました。また、今回のプログラ

ムで新たな課題もみえ、これからは英語のスキルの中でも特にスピーキングを磨いていきたいと思いました。このプログラムを通して、自分の意見を言う勇気をもつことがコミュニケーションにおいて重要であると感じ、この経験で学んだことを心に刻み、これからの学習に生かしていきたいです。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

「プログラムでの経験」

経済学部経済学科 1年 中原歩美

私が今回のプログラムに参加しようと思った理由は2つあり、私は今まで海外に行ったことがないので、海外の人たちと話す経験が今までほとんどなく、さらに同年代の海外の人たちと話したことがなかったため、海外の人たちと話すよいチャンスだと思ったことと、私は英語のスピーキングに自信がなく、中学高校のときに外国人に道を聞かれてうまく道案内できなかったという経験から、もう少し英語を話せるようになりたいと思ったからです。今回の研修で私が学んだことは主に2つあります。

1つ目は、積極的に話すことがとても大事だということです。私は、プログラムが始まる前までアメリカの人たちは積極的に話しかけてくれるだろうと思っていました。しかし、カンバセーションパートナーと話すとき、思っていたよりも向こうの方から話してくれることが少なく、私が話の話題がなくなってしまうときに沈黙になってしまったときもありました。沈黙になってしまったときに私が一番感じたことは、もっとアメリカの人たちが興味を持っていることについて知っておけばよかったということでした。私はあまりアニメや漫画について知らなかったので、「日本のアニメ、漫画で何が好き?」「ワンピースが好きだよ」「そうなんだ」で話が終わってしまい長く会話が続かなかったことを反省しています。もちろん話が弾んだときもありました。私はホラー小説や映画が好きなので、ホラーが好きなアメリカの学生とおすすめのホラ

ー小説や映画をおすすめしあったり、最近見たホラー映画について話したりしました。このことから、話題が多いほうが積極的に話しやすいので、話題を増やすのは大事だし、そのために読んだことない日本の漫画を読んだり、アニメを見たりしようと思いました。

2つ目は、自分の意見をしっかり持つことが大事だということです。私はカンバセーションパートナーと話するとき、相手にたくさん質問をしていました。質問をすると、相手の学生はほとんどすぐに質問に答えてくれました。しかし、逆に私が相手から質問をされたとき、すぐには答えることができないこともありました。このことから、私は自分のことや日本のことについてあまり知らないのだと感じました。スリッパリーロック大学の授業訪問の時も同じことを思いました。アメリカの学生は、先生から公共の場での授乳やタリバン政権などの問題についてどう思うかという質問を投げかけられたとき、積極的に発言したり、チャットを使用したりしていました。もし私が質問されたら、日本語であっても答えるのに時間がかかるだろうなと感じました。

また、今回のプログラムでアメリカと日本の違いを感じることができました。一番驚いたことは、オンライン授業でもアメリカは日本よりも先生と生徒、生徒同士のやりとりが多かったことです。授業が始まる前は、Happy Wednesday! などと言っていたし、授業の時は先生が質問して生徒がそれに答えたり、チャットで生徒同士で議論したりしていました。

日本のオンライン授業もこうだったら楽しいだろうなと思いました。ほかにもフィー

ルドトリップでアメリカのスーパーマーケットでの買い物の様子をみたときも驚きがたくさんありました。思った通りアメリカで売ってあるものはとても大きかったし種類も多かったです。棚一面にピーナッツバターが並んでいたのは迫力がありました。卵が細菌予防のためにコートされていた、果物や野菜がばら売りで量り売りされていた、日本みたいにかごは使わず大きいカートに直接買うものを入れていたなど日本と違うところを見ることができてよかったです。

このプログラムに参加したことで私は様々な貴重な経験をすることができました。特にアメリカの学生や先生たちとたくさん話すことができた経験はこのプログラムに参加しないとできなかった経験であり、このプログラムに参加して本当によかったと思っています。おかげで英語を話すことの躊躇が少し無くなりました。実際に、プログラムが終わった後のバイトで外国人のお客様がいらっしゃったときに、うまく対応することができました。とてもうれしかったです。カンバセーションパートナーの中には今でも Zoom で会って話す人もいます。だから、これからもカンバセーションパートナーと話して自分のスピーキング力をあげていきたいと思っています。



Ryan が作ってくれた肉じゃが

「実り多きオンライン留学」

理工学部 情報ネットワーク工学科

2年 安達さくら

私は、今回始めてオンラインにて SUSAP に参加しました。というのも、「大学に入学したら絶対留学してみたい！！」と入学当初から一貫して思っていたものの、新型コロナウイルスの影響を受け、留学は厳しくなる一方でオンラインでのプログラムしか組まれず、正直オンラインでの研修で得られるものは多くはないだろうと思っており、これまで参加の機会を躊躇っていたからです。しかし、「このままではいつか英語から遠ざかってしまいそう。バーチャルでもいいからいつかの留学のために自分の英語力を試してみよう！」と感じたことがこのプログラム参加の率直な理由でした。従って、バーチャルに対してはマイナスの感情を抱いていましたし、アメリカの文化的背景を探るといよりは、自分の英語力を向上したいというのが開始前の目標でした。

まず、プログラム1日目。分かってはいたのですが、自分の英語の話せなさに困惑し、それによって自信は失われてゆき、さらに話せなくなるといった無限ループに苦しみました。

「こんなにも話したいこと、伝えたいことがあるのに、紙に書いたら正確に伝えられるのに... どうして言葉が出てこないのだろう」特に、ブレイクアウトルームに入れられた時は自分を助けてくれる人はいなかったため、言葉が出てこない時間がとても苦痛でした。

今回のプログラムでは、毎日反省として短い日記を書いていったのですが、1日目の日記には自分の落ち込みがたくさん書いてあると同時に、"Be calm, just enjoy it."というこれから9日間の目標も書いておきました。短い文かつありきたりの言葉ですが、この小さな目標のおかげで私は残りの9日間を乗り切ったといっても過言ではなかったです。Insane になって Enjoy することが足りていないことの勿体無さに毎日ハッと気付かされることができましたからです。

残りの9日間は日々進歩を実感することができました。単語／文法的な意味では分かりませんが、能動的に英語を喋ってコミュニケーションを取りたい！伝わるって超楽しい！という感情を体にすり込ませることができました。こういった意味では、当初の目標であったスピーキング力の向上も少しは達成できたのかなと思っています。こういった気持ちが生まれると、能力自体が向上しているように感じるものですし、こうしたプラスの感情が更なる上達へのエンジンになると確信しています。

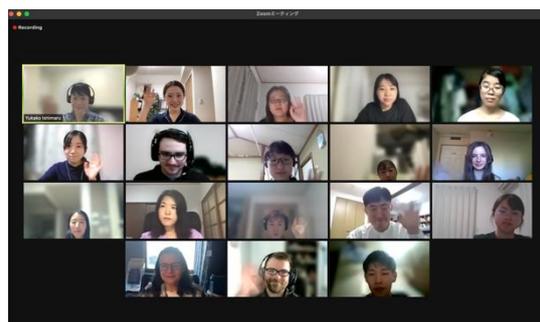
このようにコミュニケーションをとることへの余裕が少し生まれたことで、文化やスタイルの違いに目を向けることもできました。

最初に気づいた私たちと SRU 生徒の違いは‘相槌’の違いです。日本人は、‘ちゃんとあなたの話を聞いているよ’ということを示すために相槌を打ちつつコミュニケーションを取ります。しかし、アメリカ人は違いました。彼らは、相手が喋っている間何もアクションを起こしません。私はこのこと気づく前、自分の話がわかってもらえてないから何も反応していないのだろうか？と思

っていたし、自分の英語にも自信がなかったもので、とても不安でした。しかし、彼らはちゃんと意見を返してくれました。そこで、「アメリカ人は会話の時に反応しないのか?」と尋ねると、「意識したことなかったけど、相手の話を最後まで真剣に聞いて真剣に返すことでコミュニケーションは成り立っていると思っている」とのことでした。これにはとても驚きましたし、大いに共感できました。

また、参加した「日本語クラス」では、SRUの生徒が日本語を喋る機会に遭遇することができました。ここで気づいたのは、「外国人が話す日本語は可愛い印象になる」のかもしれないということです。以前、佐賀大学で英語の授業を受けた時、「日本人の話す英語は強い」とネイティブの先生が話していました。こうしてみると、その言語のネイティブの人に与える印象は言語によって様々なのだな、とあらためて言語の難しさを実感しました。

最後に、バーチャルながらも様々な人に出会えたことがこのプログラムで1番の思い出です。恋人の話をできるまで親しくなれた人、バイトしている会社が私と同じだった人、寮の友人を呼んで一緒に会話してくれた人、ほとんど歳の差がないのに娘がいた人。本当にアメリカという国は多彩な人が暮らす国家だとあらためて感じました。単なるスピーキング力向上プログラムではなく、それ以上に得ることの方がたくさんあり、人間的にもとても成長できた10日間でした。



「英語以上に、学べたこと」

農学部生物資源科学科 3年 下村綾菜

私は、今回の短期留学オンラインプログラムに参加し、国内にいながら本当に貴重な体験ができたと感じています。

私はコロナ禍の今、留学や直接現地に行くことはなかなか難しく、それでも英語を使い海外の文化に触れたいという思いで本プログラムに参加しました。そこではオンラインとは思えないほどリアルな緊張感や会話の雰囲気を感じることができました。そして短期間のプログラムでしたが、大変だったことや悔しい思いをすることもたくさんありました。

プログラムが始まってすぐに、現地学生向けの授業を聴講しました。授業となると普通の英会話で聞く英語とはまた違う雰囲気で、先生の話を中心に理解することができませんでした。そしてその授業のなかで、数人のグループに分かれて議論をする場面があったのですが、現地学生に「日本人としてどう思う？」と聞かれたときには、うまく言いたいことがまとまらず、日本語でもうまく言えないことを英語で伝えなければならぬ場面に非常に苦労しました。その日は、最初から緊張と悔しい体験をし、今まで自分が勉強してきたことや練習してきたことはまったく現地で通用しないのではないかと不安になりました。しかしその日のことをジャーナルに書き、ライティングセンターの方と話した時に、最初から失敗したくらいで落ち込んではいけなくと心から思えました。毎日書いたジャーナルは、自分の気持ちに向き合い次につなげるという面で、

英語力以上に重要なパートになっていました。その後、自分一人に対して現地学生三人と議論する場面がありましたが、最初の経験があったので、「とにかく楽しんで話そう」とリラックスして臨むことができました。

また、大変なことばかりではなく楽しい経験や貴重な経験もありました。一番心に残っているのは、会話パートナーとの1対1の会話です。疑問に思うことや、日本とアメリカの違いなど様々なことを同年代の学生と共有する貴重な体験ができました。中には、アニメなど日本の文化について日本人以上に知っている学生もいました。ほかには歴史など、自分は自国である日本についても知らないことがこんなにあるのかと思知らされました。人によっては聞きやすい英語、人によってはかなり聞き取りづらいこともあり、普段様々な人の英語を聞いていなかったので、話す速さに関係なく色々な声のトーン、アクセントの人の英語を聞くことも訓練になると感じました。

プログラムを通して、英語力自体は今までの蓄積がそのまま発揮されるというイメージでした。しかし緊張で最初は使える英語すらうまく出てきませんでした。徐々に人前で英語を話すメンタルが強くなり、「間違ってもいい」と思って話せている時に一番会話が円滑に進んでいきました。その経験から、その時の技術よりもメンタル面が大事だとプログラムを通して実感しました。

今回、事前研修の授業で「海外では自分の国や自分について説明できることが信用してもらうには大事」だということを初めて知り、研修では違う環境で失敗したとき

にどうすればいいか、など英語以上に学べたことが多くありました。なにより挑戦したいと思ったことには臆せず飛び込み、失敗してもまた前向きになれるメンタルが何事にも必要だと感じました。現地で生活するのはもっと大変なことも多いと思いますが、今回このプログラムで日本にいながら現地の生活に触れ、オンラインで海外交流する機会を持てたことに感謝したいと思います。ありがとうございました。

SRU プログラム参加報告書

経済学部 3年 松本 凌実

私が今回のプログラムを通して一番感じたことは、現地で使われている英語と私たちが普段学習している英語では大きな差があることです。私はもともと TOEIC のリスニングやオンライン英会話を使って学習を進めてきましたが、初日、先生方の紹介や、オリエンテーションを聞いた際、衝撃を受けました。全く聞き取れなかったからです。「T」の発音の抜けや、ネイティブ特有の言葉、速度、どれに関しても自分のレベルが追い付いておらず、内容を理解することが出来ませんでした。勉強向けの英語は発音がきれいで文法も正しい表現ばかりが使われますが、その方法では、ネイティブの日常的に使われている表現を聞き取ることが不可能なのだと思いました。また、授業の質に関しても素晴らしかったと感じています。私たちはオンライン留學生向けの授業や SRU の生徒が実際に受ける授業など、様々な体験をさせていただきましたが、その授業どれにおいても、生徒の理解をより高め、生徒自ら考える環境が整えられていると感じました。その例として、各授業でディスカッションの量が多かったり、それに対するフィードバックもしっかりしていたり、また、生徒同士での意見の反発やリアクションの量など、日本のオンライン授業では見ることが出来ない光景を見ることが出来ました。私も今回の経験を通して、ディスカッションに対する抵抗感などが薄くなったと感じます。日本では授業中に発言をする生徒、反応をする生

徒が少ないため、日本人も見習うべきだと感じました。学生の自由なスタイルや職場環境も面白いと感じました。対話が必要な授業にも関わらず、木の下で優雅に受けていたり、車の移動中にシートベルトを普通にして受けていたり、自由なスタイルが多いと感じました。また、先生方の中もとてもよく、職場としてもアメリカの大学は充実しているのかなと感じました。

私が今回のプログラムを通して学んだことは2つあります。一つ目はたとえ間違えたとしても伝えようとするのが大切だということです。もともと、英語は日本語や、自分が一度勉強したことのある韓国語と違い、文法や単語がしっかりしてないと伝わらないと考えていました。ただそれは間違いでした。実際、初回のオリエンテーションでこれからやっていけるか不安だったのですが、簡単な単語やジェスチャー、表情を用いることで自分の話したい事、意見を伝えることが出来ました。このことから、何度間違ったとしても、あらゆる手段を用いて伝えようとするのが必要のだと感じました。2つ目は自国の文化や特産物についての知識を深めることが大切だと学びました。日本文化について学習している生徒との交流の際、日本や佐賀についての質問であるのにもかかわらず、スムーズに質問に答えることが出来ませんでした。それは考えると恥ずべきことであり、自分が相手の文化を学ぶ上で、自身の文化について最低限の知識を蓄えておくことは礼儀だとさえ感じました。

私はこのプログラムの経験を活かして、今後の学習や生活態度を変えていこうと思います。まず勉強面では、ネイティブの音

に慣れるため、今までのテスト用の勉強は
なくし、より NETFLIX や YOUTUBE な
どの動画サービスを使いながら勉強してい
こうと思います。無駄に難しい表現や単語
を使わず、日常で使われるような一般的な
表現や言葉を覚えていくことが先決だと考
えました。また、行動面では、他人の目を
気にせず、生きていこうと思います。私は
失敗などに対して、自分がどうみられるか
を気にしてしまうタイプでした。しかし
SRU の生徒や先生は、たとえ間違いであ
ったとしても自分の意見をしっかり持って
相手に伝えるよう行動しており、そこから
議論や授業が活発になるという光景が多々
見受けられました。このような姿勢は必ず
仕事だけでなく、生きていく上で必要不可
欠だなと感じたので変えていきたいで
す。

私は将来、商社に入り、貿易に携わりた
いと考えています。その過程において、今
回のプログラムでの経験は、実践的、精神
的に私を目標に一步近づけさせてくれたと
感じました。

「今回のプログラムの成果」

経済学部経済学科 1年 高口ひな

私は、スリッパリーロック大学オンライン留学プログラムに参加しました。参加の目的は、英語力を向上させることです。特にスピーキング能力を向上させることを意識しました。ここでは、経験したこと・学んだこと、成長できたと思うこと、大変だったこと、今後の目標について述べます。

まず、印象に残っている経験から述べます。それは、日本語クラブの時間や conversation partner との zoom で、SRU の学生と一対一で会話したことです。今まで全くこのような機会がなく、またグループで活動する時とは違い、わからなかったときに聞くことができないので、初めはとても緊張しました。しかし、知っている単語と相手のジェスチャーから何となく理解したり、自分から沢山質問して、有意義な時間にする事ができました。

次に、学んだことについて述べます。学んだことは、幅広い知識をもつことはとても役に立つということです。私は普段全くアニメを見ないのですが、このプログラムが始まる前に、ワンピースを読み始めました。理由は、SRU の学生との会話のネタを何か一つ持っておこうと考えたからです。また、アニメは、外国の方に人気があるので、知っておいて損はないと思ったからです。実際に、パートナーの方との会話の中でワンピースを知っているか質問したところ、5人のうち4人が知っていて、会話が弾むきっかけになった気がします。同じように、

日本語クラブの時にも、自己紹介で一人の学生が犬好きと言ったことをきっかけに、僕も私もと共感する人が多くいて、距離が一気に縮まった気がしました。同じものを知っているとか、同じものが好きとか、そういったことは話す言語や文化が違うからこそ、より嬉しさを感じ、話が盛り上がるきっかけになるなと思いました。パートナーの学生の方それぞれが、絵を描くこと、映画をつくること、など興味深い趣味を持っていて、自分の好きなことについて話すときはとても楽しそうに話してくださいました。そのため、次はもっと相手の好きなことについてより深く話を広げられるように、多趣味、好奇心旺盛でありたいなと思いました。

次に、このプログラムで成長したと思うことについて二つ述べます。一つ目は、ジャーナルを書くのにかかる時間が短くなったことです。英語で250字以上を書く機会はあまりないので、初めは2時間くらいかかっていましたが、毎日書いていたので、1時間ほどで書けるようになりました。

二つ目は、話を聞くときにリアクションをすることです。始めは、相手の話を理解するのに精いっぱい、うなずくだけでしたが、私が話しているときや終わったときに先生やパートナーの方がリアクションをしてくれるのが、自分の話が伝わったんだなと感じ安心につながったので、同じように相手に伝わったことをアピールするためにも、リアクションをとることを心がけて話を聞くようになりました。

次に、大変だったことについて述べます。私が苦労したことは、ネイティブスピーカーの発音とスピードについていけなかった

ことです。今からすることについて説明がされているときに、ほとんど聞き取ることができず、自分が何をすべきなのか理解できていなかったのも、同じ班のななみさんやさくらさんに助けていただくこともしばしばありました。

二つ目は、自分の言いたいことがスッと言葉に出てこないということです。自分が説明しないといけないとき、また質問されたときに自分の語彙力のなさを痛感し、とてももどかしく悔しい思いをしました。

最後に、今回の経験から考える今後の目標は、SRUの学生と引き続き会話をする機会を持って、日常的に英語を話すこと、そして話すために語彙力をつけることです。10日間という短い期間でしたが、自分の課題と目標を見つけられた貴重な経験となりました。ここで得られたことを存分に活かしてこれからいろいろなことに挑戦していきたいです。

「Let's kill the vibe!」

理工学部 理工学科
知能情報システム工学コース
2年 石津 七海

私は SUSAP2021 夏に参加し、空気を読まないことが大切であることに気づいた。

研修に参加する前、私はアメリカという国に大きな理想を抱いていた。人々は皆積極的で、アメリカの大学の授業となれば日本では考えられないほどの活発な議論が行われているだろうし、皆自分の意見を恥じることなく発言するだろう。そんな環境を肌で感じてみたい。このような希望を抱きながら私はこの研修に参加した。しかし、この希望は研修 2 日目にしてはかなく散り、自分の愚かさと同様に気付くのであった。

今回のプログラムにはいくつかのアクティビティがあり、その中の 1 つに現地の大学の実際の授業を見学するというアクティビティがあった。2 日目に見学した授業は、前半に先生の講義を聞き、後半にある議題について議論をするという形式のものであった。先生が講義を終え、私たちを数人のグループに分け活発な議論が始まろうとしていた。しかし、実際に私の目の前に広がった景色は真っ黒なスクリーンである。誰もカメラをつけず、何も発言しないまま数分がたち、私の初めてのアメリカでの活発なディスカッションが終わったのである。盲目だった私は大きな衝撃をうけた。このような大失敗のディスカッションを佐賀大学のオンライン授業で何度も体験してきた。アメリカは違うと思っていたのに私の思い描いていた理想はそこにはなく、日本と同じ

光景が広がっていたからだ。私は落胆し、少しの不満を覚えた。なんだどこも同じじゃないかと。しかし、この考えも非常に浅はかであったと 3 日目の体験で気づかされた。

3 日目に見学した授業では授業の前半に学生がプレゼンテーションをおこない、後半はそれについて議論するものであった。1 人の学生がプレゼンを終え先生が意見を他の学生に求めた。しかし、沈黙が続き誰も意見を発しなかった。先生がもう 1 度うながすとやっと 1 人の学生が意見を述べた。するとそれに続き他の学生からも意見が出され、活発な議論が始まった。私は、初めに意見を述べた学生に対して尊敬の意を抱くとともに前日の自分をとても恥じた。なにか望むものがあるのなら、待っているのではなく動かなければならないと。

この考えをもって、様々なアクティビティに参加してみると大きな気づきがあった。議論が活発になるときや会話が弾むときは必ず沈黙を破るものがあるのだ。すなわち、その場が盛り上がるきっかけは、その場の雰囲気を壊すこと、空気を読まないことであるのだ。しばし日本では空気を読まないことを悪いことと捉えられるが、私は違うと思う。その空気が悪い空気であるなら読まずに雰囲気を壊すほうがよいと私は考える。これは、とても勇気のいる行為である。しかし、悪い空気を望むものはいないだろう。皆、その場が盛り上がることを望んでいると思う。悪い空気を壊してくれる人を待っているのではないだろうか。それなら、自分がその役割を買って出ようではないか。すこしの勇気で、自分の望む環境が手に入れられるかもしれないのだから。これから私は空気を読まない人になりたい。

最後になったが、このプログラムを実現し、遂行して下さった先生方に感謝を述べたい。このコロナの状況が落ち着いた暁には、実際にスリッパリーロック大学を訪れ、対面での交流ができることを切に願っている。

～最後に～

今回プログラムに参加したみなさん、
お疲れさまでした。挑戦の2週間になりましたが、オンラインで留学できたこの機会
はとても貴重なものでした。

改めて、今回のオンライン留学プログラム
を計画・実施するにあたって尽力してく
ださった先生方に感謝したいと思います。

皆さんが実際に世界に飛び出せる日が
早く来ますように。

リーダー 一同